

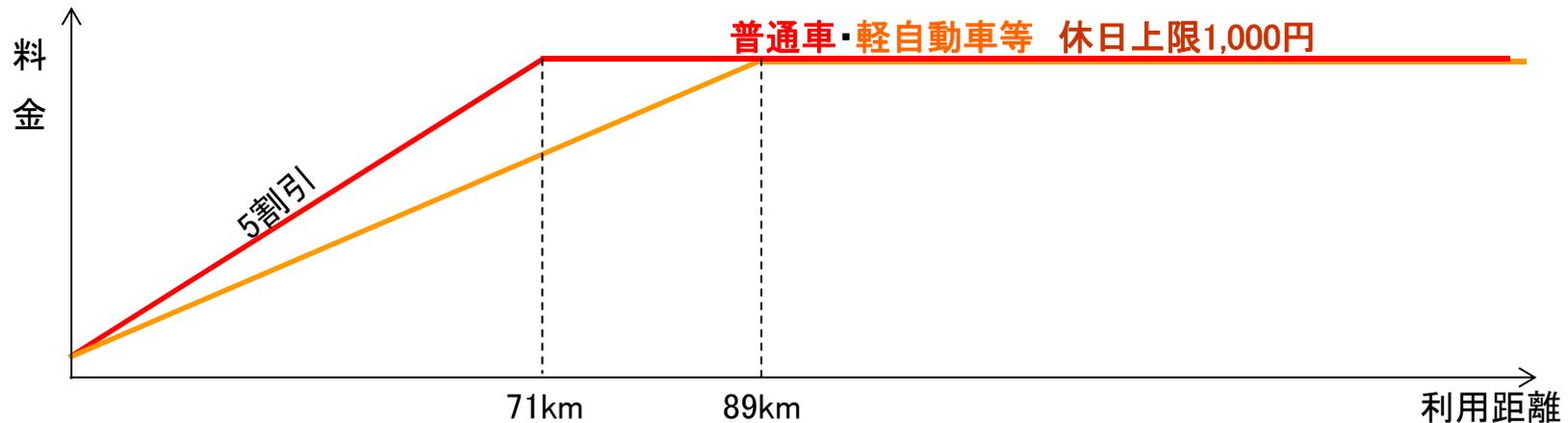
## 休日1,000円の概要

休日1,000円の導入経緯  
平成21年3月より、「生活対策」として休日上限1,000円を導入

### 休日1,000円の適用

(1)実施期間	平成21年3月28日(土) <sup>※1</sup> ～平成23年6月19日(日)
(2)適用日時	土日祝日 <sup>※2</sup> 0時～24時
(3)対象路線	①NEXCOの管理する地方部 <sup>※3</sup> の路線 ②本四高速 <sup>※4</sup>
(4)対象車種	普通車、軽自動車、自動二輪 [ETC車に限る]
(5)適用距離	普通車 71km以上(71km未満は5割引適用で1,000円未満) 軽自動車等 89km以上(89km未満は5割引適用で1,000円未満)

### <休日上限1,000円の適用距離>



- ※1 本四高速、アクアラインは平成21年3月20日より実施
- ※2 前日かつ翌日が土日祝日となる平日及びH21年度のお盆、年末年始期間中の平日にも適用
- ※3 首都圏、近畿圏の大都市近郊部を除いた区間
- ※4 NEXCOと別料金で上限1,000円

# 休日1,000円による観光経済効果(試算)

休日1,000円等による観光消費の拡大効果(直接)は約3,600億円、間接効果を含めた経済効果は年間約8,000億円と試算

## ○観光消費額の増(直接効果)の算出フロー

高速道路の観光目的交通量(休日、普通車以下)(H17センサス)

※交通量伸率(H17→H20)で補正

■ETC利用率 H20 : 74%  
H21 : 82%

※道路局調べ

■割引による旅行増加率(H20→H21)  
日帰り旅行 : 125%  
(割引前3.48回/年人→割引後4.35回/年人)  
宿泊旅行 : 118%  
(割引前2.37回/年人→割引後2.79回/年人)

※平成21年9月アンケート調査  
旅行・観光消費動向調査(2008年度、2009年度:観光庁)

日帰り旅行、宿泊旅行別の旅行交通量

■平均乗車人数(休日、観光目的)  
2.214人/台 (H17センサス)

■国内旅行における旅行単価

	平成20年度	平成21年度
日帰り旅行	17,600円/人・回	16,395円/人・回
宿泊旅行	61,346円/人・回	56,814円/人・回

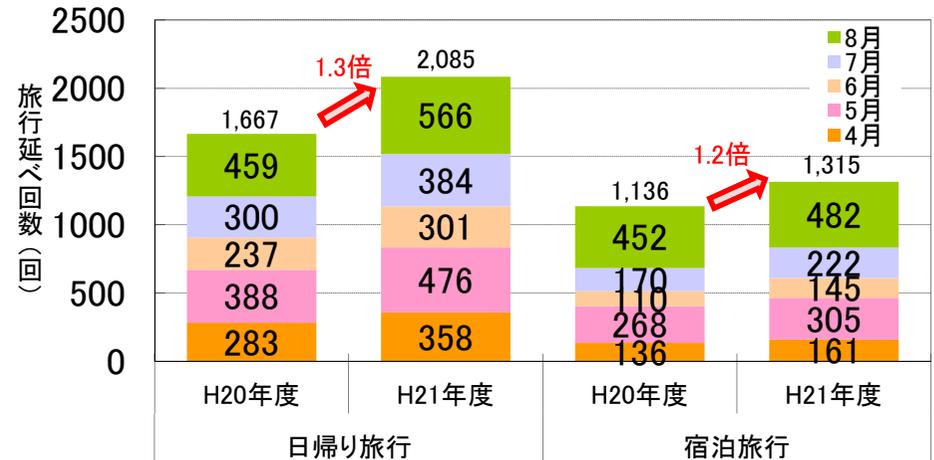
※旅行・観光消費動向調査(2008年度、2009年度:観光庁)

観光消費額の増(H20年度→H21年度)

**約 3,600億円/年**

## ○アンケート調査の概要

問 あなたが高速道路を利用して観光・帰省・レジャー等で国内旅行に出かけた回数は昨年と比べて変化しましたか。日帰り、宿泊旅行別にそれぞれ毎月にお答え下さい。



調査期間:平成21年9月4日(金)~8日(火)  
調査方法:運転免許保有者かつ、ETC車載器をつけている方(全国)  
調査方法:Webリサーチ会社の消費者モニターを対象としたアンケート調査  
回収票数:1,087票

## ○休日1,000円等による観光に関する経済効果

直接効果	3,600億円/年
間接効果	4,400億円/年
合計	8,000億円/年

## (参考)割引所要額

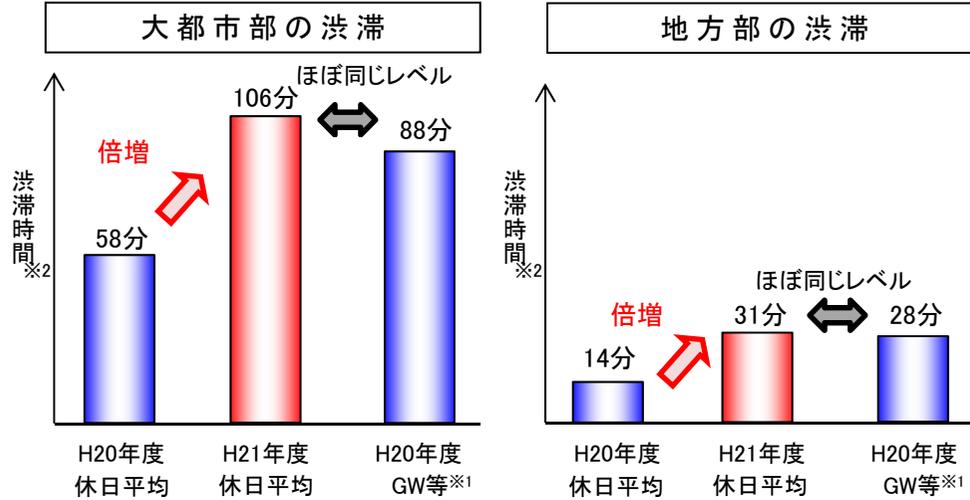
休日1,000円	500億円/年 <small>注</small>
休日5割引	1,000億円/年
合計	1,500億円/年

注) 休日5割引を実施している前提での割引所要額

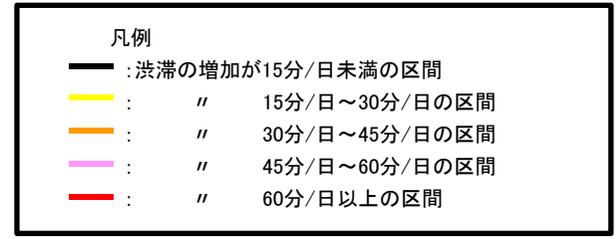
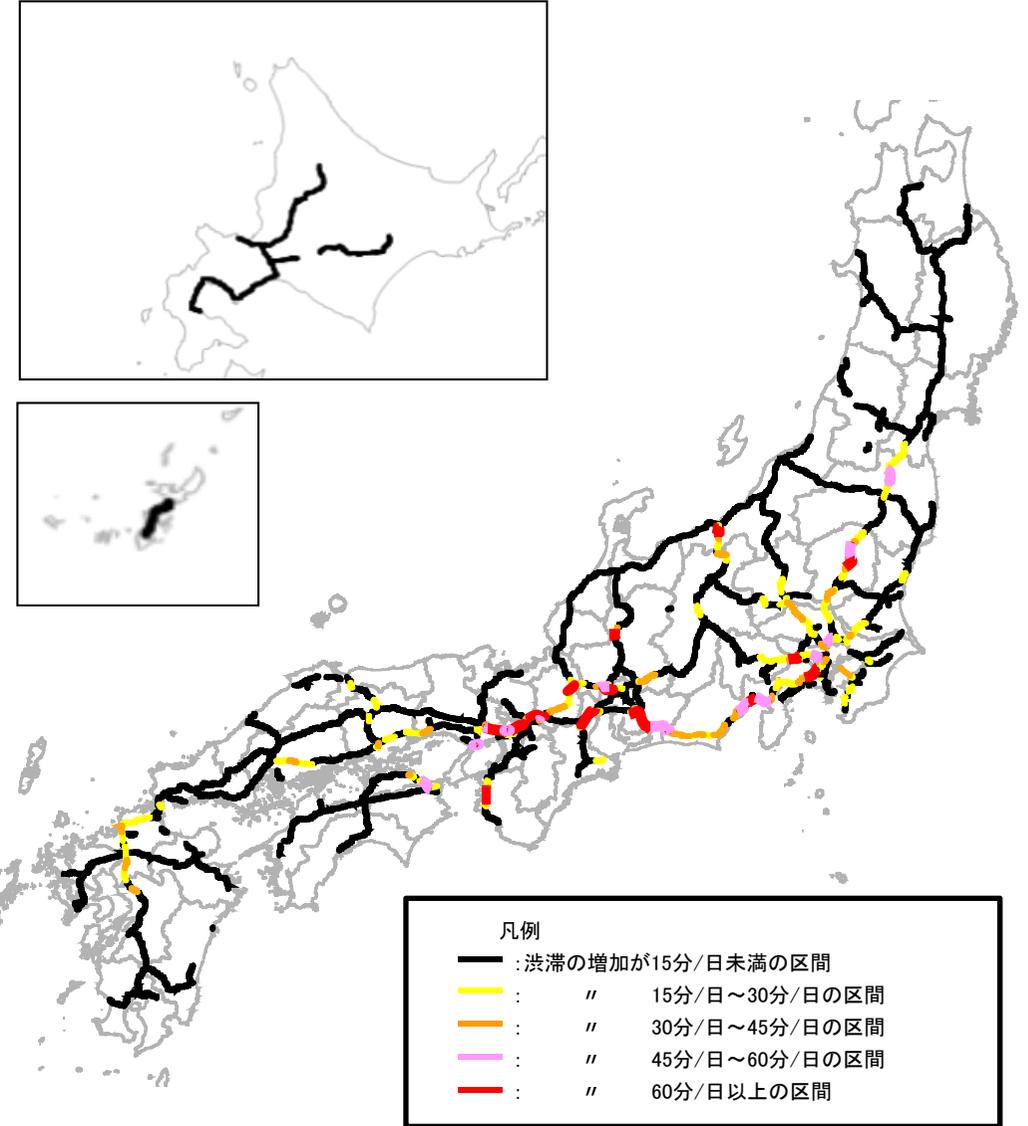
# 休日1,000円の渋滞の変化

休日1,000円で渋滞は倍増、毎週GW並みの渋滞が発生

○高速道路の渋滞状況の変化(休日)

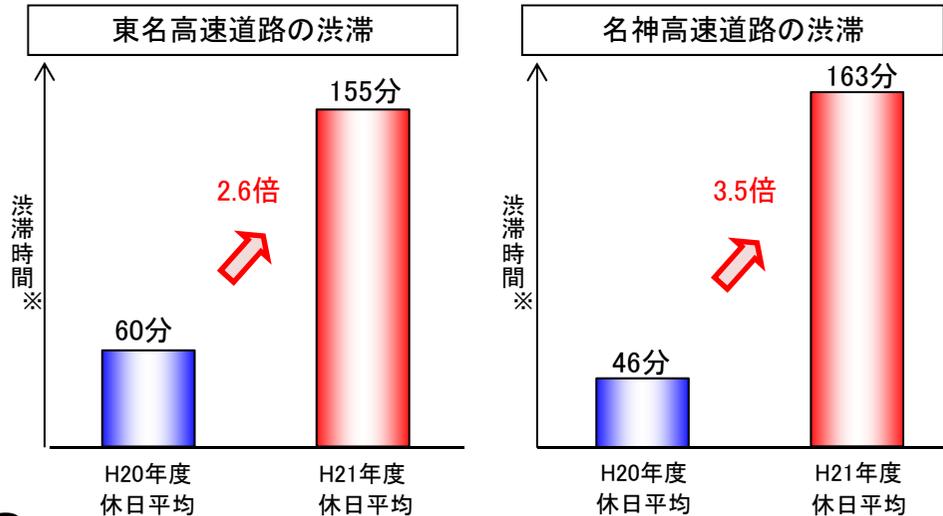


○渋滞時間の増加量(休日、H20年度→H21年度)



※1 GW、お盆、SW、年末年始の繁忙期  
 ※2 H20年度とH21年度の高速度道路(NEXCO)のVICSデータをIC間単位で集計し、総渋滞時間(40km/h以下となった時間)をIC間数で平均したもの

特に東名、名神では約3倍の渋滞が発生



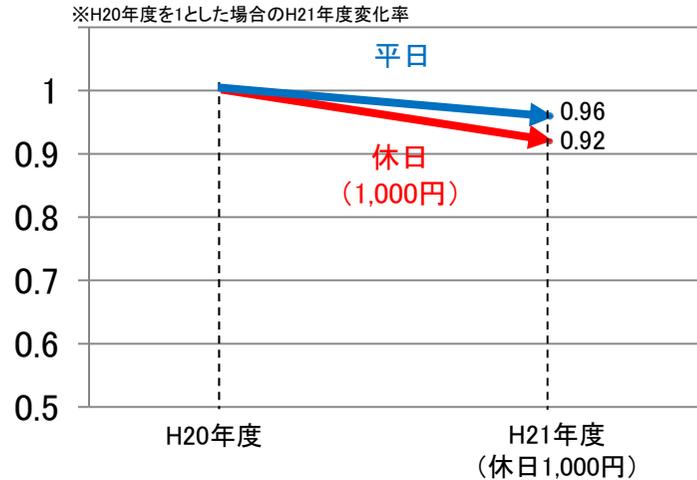
※H20年度とH21年度の高速度道路(NEXCO)のVICSデータをIC間単位で集計し、総渋滞時間(40km/h以下となった時間)をIC間数で平均したもの

※ VICSデータより集計  
 ※ H21年度は休日特別割引対象日を休日とした

# 休日1,000円における他の交通機関との関係

## ○高速バス利用者数の変化(335路線)

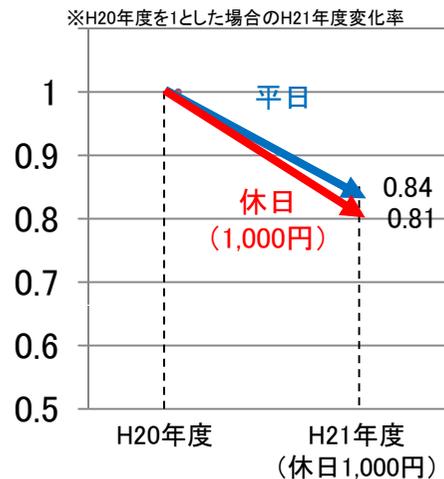
高速バスは休日の減少率が平日よりも大きく、休日1,000円により影響を受けた可能性が考えられる



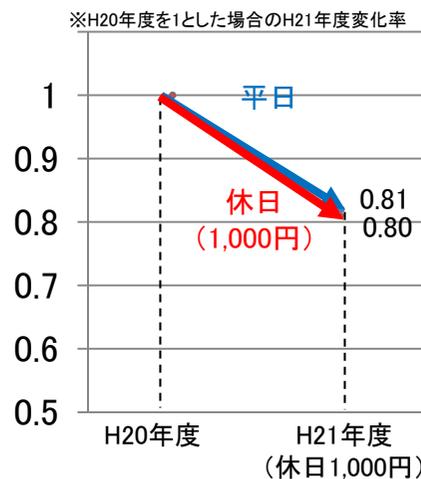
## ○フェリー(旅客、乗用車)利用者数の変化

フェリーは休日の減少率が平日よりも大きく、休日1,000円により影響を受けた可能性が考えられる

[旅客: 33航路]



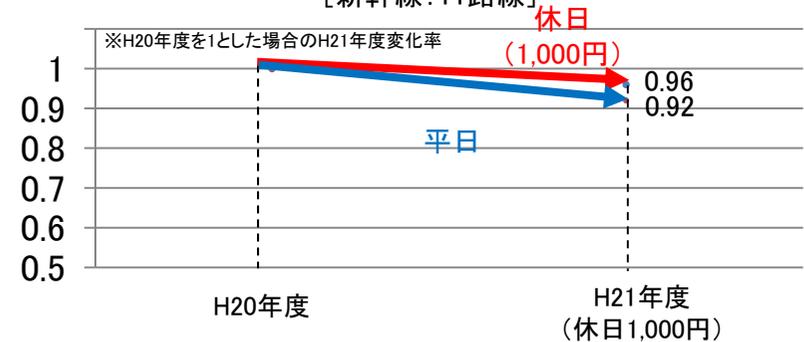
[乗用車: 32航路]



## ○鉄道利用者数の変化

鉄道については平休日に大きな差はみられない

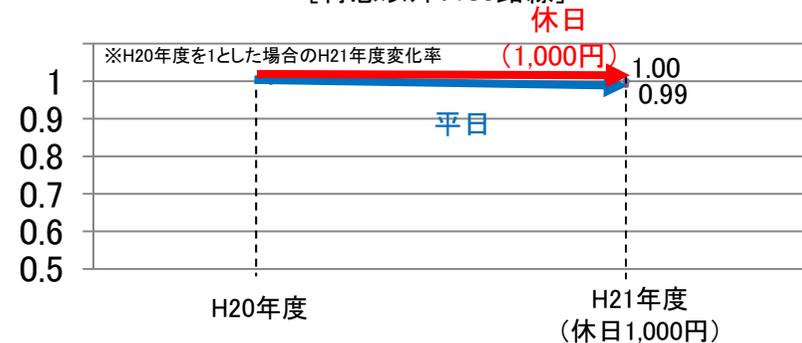
[新幹線: 11路線]



[在来特急: 113路線]



[特急以外: 183路線]



※ 景気動向・休日の配列の違い等の要因(H21年度のシルバーウィークなど)は考慮していない